

スイートピー
Lathyrus odoratus
 (マメ科)

マメ科の1年草で、芳香を発する。冬咲き系、春咲き系、夏咲き系の3品種群があるが、切り花用には春咲き系品種が中心で、一部冬咲き系品種も用いられる。暖地に作付けが多く、年末から翌春まで出荷される。日射量が不足すると落蕾が起こりやすくなる。1花茎に3～5輪をつけて出荷する。典型的なエチレン感受性切り花で、出荷前のSTS処理が必須である。STS処理により落蕾および小花の老化をとともに抑制することができる。高温期の日持ちは悪く、灰色カビ病も発生しやすい。

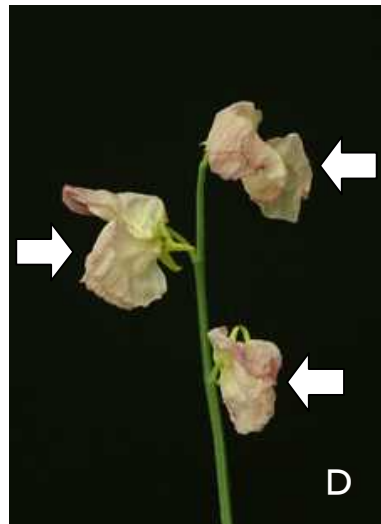
1) 品質評価基準

項目	判定基準	備考
小花の萎れ	A: 萎れなし B: 第1花が萎れる C: 1/3の小花が萎れる D: 1/2以上の小花が萎れる	小花のしおれは、A: 萎れなし、B: 花弁がやや閉じる、C: 外側の花弁の一部に萎れが発生する、D: 完全に萎れるとして判定する。C、Dの小花を萎れたと判定する。小花が3輪の場合には1花が萎れた時点でC判定とする。
落蕾	A: 落蕾なし 小花が開花せずに C: 1花が落下する D: 1/3以上の花蕾が落下する	STSの処理が不足すると発生がみられる。
軟弱茎	A: 直立する B: ややしなる C: しなる(45°程度) D: しだれるまたは折れる	
花弁の退色	A: 退色なし B: やや退色する C: 激しく退色する D: 花弁が透きとおる	染色されている場合には評価対象外とする。
その他	花弁のしみ、灰色カビ病の発生、花茎の黄変など。	

2) 留意点

品質評価開始時点で小花数および経時的に未開花数、開花数、老化数を測定する。老化していない開花小花が花茎当たり2輪以下でおおむね日持ち終了となる。湿度が高いと灰色カビ病が発生しやすい。発生個体は直ちに取り除く。

3) 開花



4) チェック事項



小花の萎れ

